

小笠原諸島の 世界自然遺産を 後世に残すため

(小笠原諸島森林生態系保護地域)



固有の森林生態系を脅かす外来種

小笠原諸島は、大陸から隔絶された海洋島であるため固有種に対しての捕食者や競争相手が少なかったことから、外来種の侵入に対して驚くほど弱く、外来種により小笠原諸島の固有種や生態系が脅かされています。

外来植物

アカギ、モクマオウ、ギンネム、リュウキュウマツ、シマグワ等の外来植物が小笠原諸島固有の植物を脅かしたり、また、それを餌や住みかとしている固有の動物の生息環境も脅かしています。

アカギ

生長が早く樹高20m以上になり、急速に分布を広げて固有の植物だけでなくアカガシラカスバト等の動物にも影響を及ぼしています。



一斉に発芽したアカギの稚樹



萌芽したアカギ



アカギの純林

モクマオウ

乾燥に強く、落葉が地面を覆い他の植物の発芽、生長を妨げます。



モクマオウ



落葉が厚く覆ったモクマオウの林床

ギンネム

立地条件が悪くても生長し、密生すると他の植物の発芽、生長を妨げます。ノヤギ排除後の裸地に侵入し植生の回復を阻害しています。



ギンネム林



刈払1年後のギンネムの萌芽



豆果

外来動物

ノヤギ、ノネコ、クマネズミ、グリーンアノール、ニューギニアヤリガタリクウズムシ等の外来動物が、小笠原諸島固有の植物を食害したり、小笠原諸島固有の昆虫、陸産貝類、鳥類等を脅かしています。

グリーンアノール

体長15～20cmのアメリカ原産のトカゲで、父島へ侵入したものが母島にも侵入し、数m離れている昆虫も見つけて素早く移動、捕食することができ、両島では固有の昆虫が激減しています。



グリーンアノール



ニューギニアヤリガタリクウズムシ



ニューギニア原産のプラナリアで、体長は40～65mmで肉食です。靴底等に付着して容易に移動し、現在は父島にとどまっていますが、父島では固有の陸産貝類の急激な減少の原因となっています。

ニューギニアヤリガタリクウズムシ
(写真：(株)プレック研究所)

ノネコ

野生化したネコが森林にも侵入し、アカガシラカラスバト等在来の動物に脅威を与えています。



センサーカメラにとらえられた森林内のノネコ

希少な野生動植物を保護するための取り組み

関東森林管理局では、希少な野生動植物を保護するため種々の取り組みを行っています。

東平アカガシラカラスバトサンクチュアリー

アカガシラカラスバトは、小笠原諸島だけに生息する希少野生動物で、主に森林を生息場所とし、地上で植物の種子などを採食します。アカギ等の外来植物の繁茂による餌木の減少や、ノネコの捕食等により生息環境が脅かされています。

このため国有林では、平成15年に、父島の東平に28haのアカガシラカラスバトのサンクチュアリーを設定し、アカギ等の駆除、ノネコの捕獲等を行い生息環境の保全・整備を図っています。

また、案内標識や歩道等を整備するとともに、決められたルート以外には立ち入らない、ガイド等が同行する、繁殖期間はルートの一部において入林禁止とするなどの利用ルールに基づいた適切な利用と保護の両立を図っています。



小笠原父島 中央山東平

アカガシラカラスバトサンクチュアリー MAP

〔森林生態系保護地域モデル地区〕



アカガシラカラスバト「学名 Columba janthina nitens」



ムニンビメツバキ



タコノキ ノヤシ



ムニンノボタン



アコウザンショウ



シマホルトノキ・実



アコウザンショウ



シマホルトノキ・実

■ 自然保護管理員による巡視

国有林では、森林生態系保護地域に生息している希少野生動植物（アカガシラカラスバト、メグロ等の鳥類4種、ムニンツツジ等植物8種、オガサワラオオコウモリ、等々）の保護・保全を図るため、生息・生育状況等の調査や環境の維持のための巡視を行っています。



巡視活動の様子

■ アカガシラカラスバト、オガサワラカワラヒワの生息状況等の調査

アカガシラカラスバトやオガサワラカワラヒワの保護対策を検討するため、生息状況や採食植物などの生息環境等について調査を行っています。



オガサワラカワラヒワ

絶滅が危惧される鳥で、母島列島と南硫黄島で生息が確認されています。



アカガシラカラスバト

絶滅が危惧される鳥で、小笠原諸島のみに生息しています。

■ オガサワラノスリのモニタリング

指定ルートのうちオガサワラノスリの営巣箇所付近を通過するルートにおいて、ツアー等利用によるオガサワラノスリへの影響についてモニタリングを行い、オガサワラノスリの保護に役立っています。



オガサワラノスリ

小笠原諸島にしか生息しておらず、生息数が少なく絶滅危惧種に指定されています。小笠原諸島で唯一の猛禽類です。



■ グリーン・サポート・スタッフによる観光客等への普及啓発活動



森林保護員（愛称「グリーン・サポート・スタッフ」：GSS）により、植生等の保全のための巡視活動を行うとともに、観光客等の皆さんに対し小笠原諸島の貴重な森林生態系の保全について啓発活動等を行っています。

外来種の駆除事業を実施した森林の状況



この外來植物分布図は、平成21年度小笠原諸島における外來植物分布調査事業（林野庁）の成果として作成した。
また、本分布図は、青森に北海道国土地院株式会社のGISMAP 25000R[®]の地理図の作成に基いて、国土地理院の承認を得て、同院発行の2万5千分の1の地形図を使用した。承認番号P21安委、第185-25865号を使用した。この上に国土地院GISデータ、平成20年11月～平成21年1月にかけて撮影した空中写真から判読した外來植物分布域のGISデータ等から作成した。

平成22年3月調整 日本森林技術協会

本土でボランティアを募集し、島民ボランティアと一緒に、母島の桑ノ木山でアカギの駆除作業を実施するなど、ボランティア等と連携して外来種の駆除を行っています。



小笠原諸島固有生態系の再生のために
汗を流すボランティア(母島)

小笠原諸島固有の森林生態系への利用によるインパクトを軽減するため、平成20年9月に森林生態系保護地域の保存地区の利用については指定ルートに限定する等の利用ルールを導入しました。



ガイドによる案内風景

指定ルートの利用に当たっては、森林生態系の保全について一定の見識を備えた自然ガイド等の同行を条件としており、これらの自然ガイド等は国有林で実施する利用講習を受講することとしています。



指定ルート入口に設置
されたカウンター

固有の小笠原の自然を守るため 皆様へのお願い

小笠原諸島では外から持ち込まれた外来種によって
小笠原諸島固有の動植物や生態系が脅かされています。

観光等で小笠原諸島に上陸する場合は、外来種の侵入・拡散を防ぐため植物の種子やプラナリア等の小さな生物を持ち込まないよう、靴底等の泥をきれいに落とすとともに、これらが衣服やザック等に付着していないか確認し、除去してください。

また、母島等に上陸する際には、海水に靴底を浸けるなどのプラナリアの侵入・拡散防止対策を必ず行ってください。



ははしま丸下船時の靴洗浄のようす

森林生態系保護地域の指定ルート等の入口には、外来植物の種子等の侵入・拡散防止のため、靴の泥を落とすマットや衣服についた種子を除去する紙の粘着テープ(通称コロコロ)を設置しています。

また、プラナリアを駆除するための酢のスプレーを設置しています。

指定ルート等の入口では、靴の泥落とし、種子の除去及びプラナリアの駆除にご協力をお願いします。



靴の泥落としマット



酢のスプレー



紙の粘着テープ(通称コロコロ)